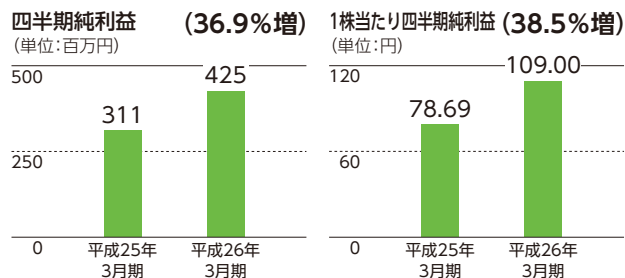
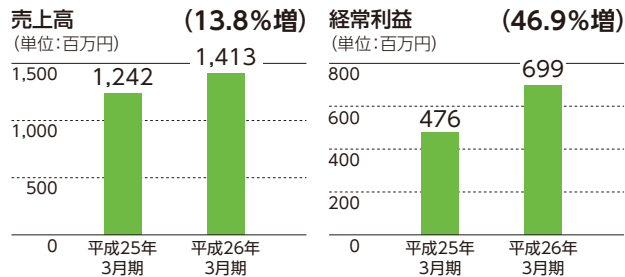


## 第1四半期業績ハイライト



平成26年3月期通期(業績予想) (単位:百万円)

売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益(円)
4,200	1,200	750	192.00

## IRニュース

### 第31期定時株主総会および株主懇談会のご報告

所要時間 1時間3分  
出席株主数 85人  
お連れ様 18人



平成25年6月13日、当社第31期定時株主総会を開催いたしました。また、より多くの方に当社をご理解いただく機会として、株主懇談会に株主様のお連れ様をご招待する取り組みを昨年に続き実施しました。

当日の株主総会会場では、ユーザ企業様から頂戴した当社の製品やサービスに対するコメントをビデオ上映するなど、新たな取り組みも行いました。

今後も、皆さまにより当社をご理解いただくため、運営を工夫してまいります。

## 竹のシンボルマークへの想い

当社は、平成5年7月に、ITシステム運用分野に特化したソフトウェアの開発・販売事業を本格的に開始してから、今年で20周年を迎えました。これもひとえに、皆さまのご支援の賜物と心から感謝申し上げます。



当社は、この20周年を一つの節目とし、お客さまのビジネスの発展にいっそうお役に立たせていただきたいと決意を新たにしております。

大地にしっかり根を張り、どのような厳しい風もしなやかに受けとめ、まっすぐ伸びていく竹のように、これまで培ってきたITシステム運用のノウハウと開発思想を存分に活かしつつ、時代の変化に柔軟に対応し、着実な成長を目指してまいります。

### IRカレンダー

当期、第2四半期(4月～9月の6ヶ月累計)の決算発表は、平成25年11月7日(木)を予定しております。

### 配当予想

中間および期末配当金の予想については、前期の普通配当実績にそれぞれ2円を加えた1株当たり30円00銭(年間配当金は60円00銭)の予定です。(平成25年5月8日発表)

### 会社概要 (平成25年6月30日現在)

商号 株式会社ビーエスピー  
設立 昭和57年5月  
上場 東京証券取引所 JASDAQ市場(証券コード:3800)  
資本金 13億3,000万円  
従業員数 222名(連結)  
所在地 〒108-6029 東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟  
ホームページ <http://www.bsp.jp/>  
お問い合わせ 広報IR室 TEL:03-5463-6384

## 平成26年3月期 第1四半期 決算レポート

平成25年4月1日～平成25年6月30日



株式会社ビーエスピー  
証券コード:3800

BSPグループは  
ITシステム運用を  
支えている人達を  
応援します。





代表取締役  
社長執行役員  
竹藤 浩樹

株主の皆さまにおかれましては、平素より格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

今期、当社はITシステム運用分野に特化したソフトウェアの開発・販売事業を本格的に開始してから20周年を迎えました。これもひとえに、皆さまのご支援の賜物と心から感謝申し上げます。

当社は先般8月8日、平成26年3月期第1四半期決算を発表しましたので概要をご報告申し上げます。



### 第1四半期連結決算の概要 前年同期比、増収増益に

当社グループは、20周年を受け、本年度をこれからの事業拡大に向けた節目の年度として「お客様のIT部門がITサービス部門へ変革していくためのコンセプト＝運用レス2.0」を事業展開の基軸に置き、ソリューションを提供してまいります。「運用レス2.0」とは、2つの方向からお客様のシステム運用部門の変革を支援するもので、ひとつは、クラウド環境を含めたシステム機能全体の価値向上に貢献するサービスマネジメントの提供であり、もうひとつは、システム運用部門における、オペレーション運用の汎用的業務の効率化を支援するものです。今期は、これら2つの方向から製品やサービスを順次リリースすることにより、お客様の利便性向上を追求してまいります。

当第1四半期における売上高は、14億13百万円(前年同期比13.8%増)、営業利益は6億66百万円(同43.6%増)、経常利益は6億99百万円(同46.9%増)、四半期純利益は4億25百万円(同36.9%増)、1株当たり四半期純利益は109円00銭(前年同期は78円69銭)となりました。

売上高については、プロダクト事業、メインフレーム事業が牽引し、前年同期比増収となりました。利益面については増収効果に加え、プロダクト事業の採算性の改善、経費削減等により前年同期比増益となりました。

### 事業別の取り組みと売上・受注の状況

#### 【プロダクト事業】

プロダクト事業売上は、4億3百万円(前年同期比27.0%増)、営業損失は92百万円(前年同期は1億83百万円の損失)となりました。

製品売上は1億21百万円(前年同期比50.9%増)、技術支援サービス売上は78百万円(同56.9%増)、保守サービス売上は2億3百万円(同8.7%増)となりました。

プロダクト事業全体では、企業の設備増強によるリピートオーダーを獲得したこと、基幹システムの刷新などの大型案件を成約したことなどから、製品売上および技術支援サービス売上、保守サービス売上ともに前年同期比で増加しました。また、海外売上においては、中国での販売強化のために同国で幅広い販売網を持つ株式会社ビーコン インフォメーション テクノロジーとの上海での拠点統合等による協業強化により、前年同期比で伸張しました。

#### 【メインフレーム事業】

メインフレーム事業売上は、9億71百万円(前年同期比10.0%増)、営業利益は7億75百万円(同12.3%増)となりました。

製品売上は1億95百万円(同146.5%増)、技術支援サービス売上は10百万円(同34.4%減)、保守サービス売上は7億66百万円(同2.8%減)となりました。

製品売上は、大手通信系データセンタ企業の大規模マシン更改等を受け、大幅に増加しましたが、技術支援サービスは前期下期の受注活動の不足から減少しました。また、保守サービス売上はオープン化の潮流の中、当初の見込み通り減少しました。

#### 【ソリューション事業】

ソリューション事業売上は、38百万円(前年同期比7.1%減)、営業利益は3百万円(前年同期は2百万円の損失)となりました。

現在、経営に貢献する運用部門の構築に向けたメソッドである「ASMO(アドバンスド サービス マネジメント オフィス)」を訴求するため、グループ内協働体制によるお客様の経営層へ直接アプローチを行い、ニーズの喚起に取り組んでおります。

### 導入事例

ANAグループ、全業務システムを対象とした運用支援ツールに当社の「LMIS on cloud」を採用!



平成25年5月、当社のクラウド版ITサービス管理ツール「LMIS on cloud (エルミス・オン・クラウド)」が、ANA(全日本空輸)グループの全業務システムを対象とした運用支援ツールに採用されました。

業務システムは日々の使用により、社員の出退勤の記録といった日常的なものから、システムエラーなどの緊急時の情報など様々なデータが蓄積されていきます。ANAグループでは、以前から他社の運用支援ツールを使用していましたが、この蓄積されたデータをもとにサービス品質の向上や運用業務の改善を実現する方法を検討していました。

さらに同社グループでは、自社で構築した別のシステムも並行利用しており、蓄積された情報の活用とともに、システムの統合も改善課題として挙がっていました。

そこで同社グループでは検討の結果、運用管理システムを当社の「LMIS on cloud」に統一することにより、情報活用のしやすさとシステム統合を一挙に図りました。これにより、これまでグループ各社ごとに置いていたサーバをクラウド上で一つにまとめて管理できるようになり、従来システム上に散在していた膨大なデータを活用することで、トラブル時の早期解決が可能となりました。

